

フレージャーベルの思想

|| フレッチャーに據る ||

紹介子

お断り。編輯の都合上、前號のこの記事は、フレージャーベルよりの引用を中途で打切りました爲めに、小みだしの「教育の目的」といふ項が完結しませんでした。それ故に本號のこの記事が前號の分と併せ讀まなければ筋の通らぬものとなつて居ることを讀者諸君にお詫び致します。

「とはいへ、内部的なる夢想と外部的なる智識、知覺、行爲との間には大きな溝渠があつた。それ故私には斯ういふ風に考へられた、即ち人間性の教育教化に於て包含せらるべき、否包含せられなければならぬすべてのものは、本然の發達段階に於ける性質に依つて、及びその性質がその周囲と持つ關係に依つて、必然的に條件づけられ、賦與せられなければならぬものであると。而して是等の關係を尊敬し且つ知るやうに訓練され、是等

の關係を統轄し、考慮するやうに訓練された人が、教育された人、教養を受けた人であるやうに、私には思はれたのである。

その頃私は非常に一生懸命になつて努力した。

けれども方法並びに教育の目的は、私が數年を費してすべてを秩序に持ち來たし、すべてを潑刺たる——又は私が時折使ひ馴れた表現法に従へば——內的の結合に持ち來たさうとしても、ホンの少ししか渉らなかつた位に遊離して居り、無秩序になつて居る斷片の堆積裡に私を佇立させて了つた………。

ベストロッチの方法を私が必要だと思つたことは事實である、けれども又私がそれを生氣潑刺た

る力を十分に備へて居るものと思ふことが出来なかつたことも事實である。最も私が失望したのは教授課目の間に有機的の結合が少しも無いといふことであつた。これは私が生徒と共に自分で手掛けて見て強く感じたのである。尤も生徒はこのことを氣が附かなかつたのであるが。私はやがて斯ういふことを固く信するやうになつた、即ち眞の教育とは全體を渾一と見るが故に湧いて來るところの悦ばしき、自由な活動であつて、この活動は、全體の本質であるところの固有の生活力によつて、條件づけられるのであると」

教育家の仕事といふものに對して、フレーベルの持つてゐた概念は、彼自身も告白して居る如く最初は甚だ限られた狭いものでありました。しかし、彼の見解は漸次擴大せられてゆきました。フレーベルは恁んなことを書いて居ります。

「私は私の教育家として第一の仕事を簡單に記述することが出来たであらう。つまり私は一生懸命

になつて、私の生徒に、出来るだけ、善い教化、教育、發達を與へやうとするのであると言つたであらう、けれども私は私が當時生活して居た境遇及び私が當時達してゐた教養の段階では、恐らく、この目的を達することが出来なかつたであらう。私がこのことを十分に意識すると同時に、イェルドンへ行つて、ベスタロッツチの許に於てこの目的に達するより他に途はないといふ考へが、私の心に浮んで來た。私はこの確信を十分の決心を以て發表した。斯くて私は、私の三人の生徒と共に、一八〇八年の夏、イェルドンへ赴くべく決定するに至つたのである」

而して、この時のフレーベルの意氣組は太したものでありました。

「若し私がイェルドンに期待してゐたことを一言にて蔽はんとならば、それは少年及び青年の力強き精神生活である、この精神生活は獨創的活動のすべての形に於て現はれて居るのである、而してそ

れ故に肉體的、精神的のすべての能力を十分に働かして居るのである。……イベルドンに於て回答の與へられないやうな問題があり得やうとは私には思はれなかつた」。

フレーベルは、實際「偉大な、多面的な、刺戟的な生活」を、豫想通りにイベルドンに於て發見しました。けれども彼は斯う書いて居ります。

「その刺戟的な生活も、私を盲目ならしめて、多くの明白な缺點や不備を見せないやうにさせることは出来なかつた。けれども一般の奮闘的態度——尤もその頃は多少異つた形の努力、不適當な形の努力が示されてはゐたが——が内部的結合及び渾一に代つてゐたのである……」。

この方法及び目的の兩者に於いて努力の渾一が缺けて居るといふことを私は直ちに感じた。私はその中に、當時行はれてゐた教育法の不完全、不十分を認知した……。私は、より高き何ものかを感じてゐた。而して更に／＼産出的なるべき原理

——全體の内部的渾一を信じてゐたのである。私はベスタロツチ程の強大な生活力を持ち得ないけれども、右の原理はベスタロツチよりも明瞭に認めて居ることを信ずる」

イベルドンへ滞留すること二年の後、フレーベルは、次のやうに私達に語ります。

「全體に於て、私はイベルドンに於て、向上的なかゝやかしい時を過した、而してそれは一面私の生涯の決定的時代であつた、而かも終頃には、内部的の渾一と必至の缺無並びに外部的の被理解性と完全の缺無とが益々私にとつて、明白なものとなつて來た」

すべての事物の本質的の渾一といふ、漠然とした、理想的な概念が、フレーベルの心を既に、攻圍して了つたといふことは明かであります、その後二年経つて、彼がゲツチンゲンの大學に學生となつて居た時分には、彼は斯ういつて居ます。

「あらゆる處に於て認めることの出来る、すべて

のものを包括する内部的の絶対法則は、直接的及び概括的の程度に於て種々に相違して、自然生活、人間生活のすべての事物に現はれて居るといふことが、明かに力強く私に感ぜられた」

フレーベルは、この意見を強く懐いて居ました、それ故、彼は後年、彼の教育の外部的方法に於てこの意見に適應した方法を案出しやうとして、種々の技巧的なものを考へたのであります。

フレーベルの説の中で、價值のある、實のある部分はすべて、ベスタロツチの芽から成長して來たものであります、而してその特色的の缺點ともいふべきものはフレーベル自身の萬有神論的の理想主義からの所産であります。斯う斷定することゝに太した不都合はないと私は信ずるのであります。然らばフレーベルはベスタロツチを如何に評價して居たでありませうか。これを考へてみるには彼の「シユワルツブルヒールドシルシユタットの公女に奉る書」を見るに若くはありません、彼は

この報告の中で次のやうに言つて居ります。

「ベスタロツチが教師の上に爲して居る要求は簡單で且つあたりまへで御座います。その要求は教師と生徒との性質を基として居ります。それ故にこれは極めて分り易いもので、誰にでも容易に實行し得るもので御座います。

生徒の習ひ覺えるべき學課に就ても同じやうなことが言はれます。是等も亦簡單なものから進んで行き、その教授過程は各學課の性質の中に存して居る關係の必然的の聯絡によつて決定されるので御座います。教師が自分の能力に従つて、或る點から出發します。さうすれば——若し彼が彼の學課の本質的の性質に於て教育されて居るならば——彼は彼の教育の要求に従つて、觀察及び自修によつて彼自身を容易く教育し得るのみならず、その學課に於て彼の生徒をも十分に教育することが出來るので御座います。自分を完全なものにしたいと望んで居るやうな殊勝な心掛けの教育家は

直きに、彼自身に於ける、ペスタロッチの方法の
かゝりやかしい結果を、衷心の悦びを以て見るであ
りませう、彼はそれが彼自身の性質に基いて居る
ことを知るでございませう、而してそれが爲めに、
ペスタロッチの原理は彼自身のものとなり、彼の
生活の中に入つて來るので御座います。然る時に、
彼は彼のすべての行動に於て、ペスタロッチの方
法を精神と愛と温かさといふのと自由とを以て、
現すことが出来るので御座います、それ故に彼は
彼の生徒を、自分の子か兄弟のやうに思つて、彼
等の要求に従つて、教育することが出来るので御
座います……。

目下、都會及び田舎の二つながらに於て、學校
に蟠つて居る誤謬はこの方法を採用することによ
つて、除かれるで御座いませう。ペスタロッチの
原理によつて學校を組織することによつて、必ず
得ることの出來る結果は秩序であります、心身を
常に自分の思ふまゝに敏活に働かし得ることであ

ります、教養に於ける卒業的の進歩であります、
生徒に關する生々とした根本的の智識及び生徒の
諸性質への透入的視察であります、生徒をして眞
に學校を愛さしめ、教師を愛さしめることであり
ます、すべての種類の階級からつまり世間一般か
ら、皮相の知見を驅逐して了ふことであります……。
質朴、天爵に甘んずること、不拔独自の品
性、思慮深き行爲、實踐的徳性、眞の宗教、斯うい
ふものがペスタロッチによつて教育された市人を
標示するで御座いませう、而して家庭的及び都市
的の幸福は請合はれてあるで御座いませう……。
ペスタロッチの方法は、何處にも、局限を設け
ません。人の發達、全きを期する人の教育の無究
の進途、若しくは時空に制限せられない、人の智
識のひろがりに對して、何處にも、障礙防塞を築
いては居りません」

▲フレイヘル主義の撮要▼

フレーベルの教義は、その頃の彼の若き生活、理想主義、及びベスタロチといふ三個の源流が相集つて流れたものに外なりません。

フレーベルはベスタロッチよりも、目的といふことを深く考へてゐました、即ちすべて眞の發達といふものは、従つてすべて眞の教育といふものは、自己命令的の過程である——目的が人間の教養及び進歩の基調であるといふ生きた原理を明確に懷いてゐたといふことは事實であります、彼の教義がその生きる力をベスタロッチから得來つて居ることも亦否定出來ない事實であります。フレーベルが教育界の先哲の一人として思想上に炳乎たる光を投げて居るのは、彼がこの點を力説したからであります。いけないことには彼の青年時代の型と彼の漠然とした理想哲學とが、彼の生來の夢みがちな、思索的な氣分に結び付いて、彼の思想を、神秘主義の色を以て染め爲し、且つ又數學的及び擬形而上學的の不條理の數々を以て彼

の體系に不面目を與へて了ひました。

次にフレーベルの體系の中から主要な部分を撮要して長く續いたこの記事を終らせたいと思ひます——。

(一)人は、その本質的渾一に於て、すべてのもの、殊に自然と共にあるものであります、何故ならばすべてのものは神のあらはれであるから。

(二)發達の連續は、教育せらるべき兒童に於て、及び依つて以て兒童の教育が達せらるべき外的の方法に於て、等しく見出されます。それ故に教育の學課に關する發達の法則は學課それ自身の中に見出されるべきであります、又この法則は、一種の豫備的調和によつて、發達しつゝある人間の魂の繼起的の要求に一致するのであります。

(三)ベスタロッチに従へば、教育するものは生活であります。而してそれ故に教育的過程の本質は目的を喚起し、命令することであり、又兒童によつて、それらの目的の追求に、適當な方法

を供給することでありませう。

(四)目的を斯く追求するといふことは、必然的に身體的の活動に結合されます、幼年時代に於て殊にさうであります。

(五)訓練の本質的職分は、人間の中にある神の心を全からしむることあります。従つて教育は強制したり、束縛したりするよりも、保護したり、奨励したりすべきであります。「教育、教化、教授の根本的原理は受動的、保護的であらねばならぬ命令的、干渉的であつてはならぬ」……。「教育は命令的よりも受動的、保護的であらねばならぬ、然らざれば人間の中にある神の心の自由な而して意識的な開展——それは人間種族の自由發達である——は失はれて了ふ」……。「純粹の命令的の教育は、自意識が發達して了ふまでは、始められてはならぬ。何故ならばその時になつて始めて、個人の本質的の性質が明かになるからである。故にすべての生徒に於ける原始の健康な性質の缺點の種

子と種類とが明かになつて来る前に、爲し得られるところのすべては、兒童を、彼自身及び他の者にまで彼の行爲の結果が明かにせられ得るやうな周圍の中に、置くことである。而して同時に悪しき傾向の活動する機會を成るべく尠くすることである……。然る時に、すべての善き教育に於て、すべての眞の教化に於て、必要が自由を喚起すべきである。法則が自己決定を招致すべきである。外部的の強制が内部的の自由意志に發達すべきである。外的の憎惡が内的の愛を産むべきである。」

この最後のくだりは重要であります。而して強められる必要があります。何故ならばそれは教練に就てのフレーベルの考をよく現して居るものでありまして、それにも拘らず屢々不問に附せらるるからであります。彼の教義は屢々、ルンオによつて説かれたやうな、すべての人間の抑制を拒否するものであるかのやうに解釋せられて了ひます。

そんなことは少しもありません。フレーベルは意志を訓練し、本能を拒み、目的に従ふ爲めに、抑制の必要であることを明かに認めて居るのであります。彼は斯う言つて居ります、「教化によつて幼年を訓練することの主なる目的は、眞の人間生活の純真な目的の上に横つて居る、活動的な、確固とした、不拔な意志を養成することである。」けれどもすべて斯る訓練は、効果的であるためには、兒童の生活の内心の核の上に、働かれねばなりません。「兒童の自然的活動が意志の確かさにまで持ち上げられるためには、その活動のすべてのいとなきが、彼の心の發達と形成とから湧き出して、これと不斷の關係を保つて居らねばならぬ。」

人間の惡を矯正するためには、その生得の善き傾向を發揚させて、之を育て、行くべきであります。然る時には惡は竟にその影を潜めて了ひます。自己統轄は十分に練習されねばなりません。生理的の力も養成せられなければなりません。これ

がなければ、幼兒教育の中心となるべき眞の訓練を十分に行ふことが出來ないからであります。生徒のためならば、かなり嚴酷な罰でも忍んで課さなければなりません。「幼年期こそ訓練の時である。」以上の記述によつてもフレーベルがルンオの野放しの説を採用して居るのでないことは、了解せられるであります。フレーベルが訓練の必要と價值とを認めてゐたことは争ひ難き事實であります。

(六)以上の訓練の原理から幼年期の訓練の重要といふことが述べられます。所謂三ツ子の魂「百までも」であつて、幼年期に受けたる精神生活上の傾向は永久的なものであります。兒童は先づ、両親及び他の大人によつて、彼のために爲されることは彼の内的生活を、それ自身として全體ならしめ、同體に大なる全體の一部とならしめやう爲めであると感じるに違ひありません。この考へが彼をして、彼の兩視に對して感謝せしめ、すべての

年長者に對して尊敬を懐かしめるのでありませう。

(七)發達しつゝある魂と外部的訓練の方法との間に調和が存するといふ概念から、フレーベルによつて發達せしめられた方法が眞の教育のためには缺くことの出来ないものであるといふ教義が續いて來るのであります。

これはフレーベルも深く自ら信じて居ります。それ故に「恩物」と「仕事」とはフレーベルの教育組織の中に於て、重要な部分を成して居るのであります。彼の心にとつては「恩物」や「仕事」は外的の方法——而かも唯一の案出し得らるべき外的方法——であつたのであります。而してこれによつて、すべての事物の渾一及び精神的發達の連續の了解が保證せらるゝのであります。それ故に彼は是等のものが幼年期に於て用ゐられなかつたならば、少年期に於て、用ゐらるべきであると説いたのであります。彼はこれに就て斯う言つて居

ります。「多くの場合、子供といふものは、彼等が既に學んでゐなければならぬことに對つては、常にいくらか年をとり過ぎて居るものである。けれども彼等は、彼等が既に幼年期を通過して了つて居るからといふ理由で、一生この訓練を受けずに濟まされてよいものであらうか。」

彼は又恩物に就て次のやうに述べて居ります。

「恩物は等しく、兒童の性質と玩具の本質的の性質との上に、その基礎の置かれてあるものである。兒童は物質的、形而下的の彼の身體によつて、精神的存在として、事物の世界に關係して居るものである、恩物は右の事實にその根ざしを持つて居るのである」

仕事も同様に必要なものであります。

「恩物」や「仕事」は、訓練の方法として有り得べき多くのもの、中から取つた一つではなくて、唯一の眞の方法であつたのであります。それ故にこれは彼が世界に與へた教育組織の本質的部分

であるのであります。然るに現今のフレーベル追従者は、彼等自身を、フレーベルの弟子と稱することに熱心であるにも拘らず、その師の「恩物」や「仕事」を濫りに廢して了つて、各自勝手な訓練方法をとつて居ります。尤も經驗によれば、或種の「仕事」は子供の生理的發達段階に對しては、不適當であり、幼きもの、筋肉をあまりに早くから使ひ過ぎ、不相應な緊張を眼に課するといふことは明瞭であります。

けれども彼等か「恩物」や「仕事」を踏襲しないのはこの實驗的の根據にばかり基くのではなく彼等はフレーベルの神秘的の象徴主義を顧みないものであります。

けれども、これは最も特色的な、フレーベルの教授に關する部分が無視することになるのであります。丁度近代のヘルバルト學徒の多くがヘルバルトの教育主義に緊密な關係のある心理學と哲學との全體を拒みながら、たゞ單に彼等が教育の興

味と連續とを信奉するといふ理由で、ヘルバルトの名の後に彼等自身を名宣ることを悦ぶやうに、多くの思慮深き近代のフレーベル學徒は、自己命令的活動の偉大なる原理には忠實でありながら、彼等の師の組織の他の部分には少しも忠實ではないのであります。

偉人の仕事に於ても、その間違つて居る部分、重要でない部分が、消滅して了つて、生きた真理のみが残つて行くといふことは、確かにいふ事であります。けれどもヘルバルト學徒の場合に於ても、フレーベル學徒の場合に於ても、その師によつて獨創的に述べられた、生きた真理は無いのであります。従つてその組織を全體として信奉するものを現すべきヘルバルト學徒、フレーベル學徒といふ如き稱呼は誤解を招き易いのであります。

(完)